

2023 01 Winter

認定 NPO 法人がんサーネットジャパン

CNJ Speakers

Know(≠No)More Cancer 私たちは、もっと伝えたい



No.
27

今こそ考えたい!高齢のがん患者を取り巻く課題・解決策
CNJ News / CNJ Report
海外がん医療 TOPICS



医師 長島 文夫



CNJ 理事／看護師 梅田 恵

今

こそ考えたい！

高齢のがん患者を取り巻く

課題

・ 解決策



がん患者の7割近くは高齢者。

しかし、自分はがんにはならないなどの迷信を信じて、備えていない高齢者も少なくありません。

高齢者は他の疾患を抱えていたり、情報が偏っていたり、認知機能が低下していたりと、治療の選択が複雑になります。

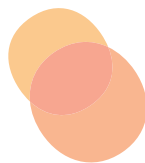
若い患者にはないさまざまな課題と解決策を、

長島文夫氏（医師）と梅田恵氏（看護師）が語り合います。

本対談は感染症対策を十分に行った上で実施しました

がん医療の発展で、

高齢がん患者にもメリットが



梅田 これまでは、高齢であったり、慢性疾患を抱えていたりするとがんの治療を受けることが難しいと言われていました。しかしがん医療が進んだ近年では、それが変わってきているようですね。治療ができるかどうかの判断基準は、どのようなところにあるのでしょうか。

長島 必ずしも年齢で括りにしているのではなく、高齢だからという理由のみで治療ができないということはありません。ただ、身体的な機能が落ちていたり、

脆弱だったりすると、推奨されている治療（標準治療）が受けられない、つまり適切とは言えない場合があります。これは高齢者ではない方でも同様です。

梅田 現在では治療法の選択肢が増えているほか、副作用などの有害事象のコントロールも適切にできるようになっています。それは高齢の患者さんにとってもメリットになるでしょうか。

長島 がん薬物療法についていえば、従

来の抗がん剤（細胞障害性抗がん薬）のほか、分子標的薬や免疫治療薬のような薬が登場しています。副作用のプロファイルが異なり、身体への負担が少ないうものも出てきています。また、支持療法の進歩により、脆弱な患者さんでも相対的に治療を導入できる場合が増えてきているのかと思います。選択肢が増えてきているので、高齢の患者さんにどういった治療を提案すべきかを、より詳細に考えていくことが重要です。

梅田 治療を提案する際は、どのような点を注視する必要がありますか。

長島 一般的な規準である、臓器機能やPS（パフォーマンスステータス）の評価に加えて、高齢者の特徴としては老年症候群のような身体機能の変化、認知機能の低下などの精神的機能、家族の支援などの社会的状況などに配慮する必要があります。また、併存疾患により、内服薬も増えてくるが多いため、薬物相互作用にも注意が必要です。独居高齢者や高齢者夫婦などの世帯も増えてきているので、生活支援の必要性にも気を配り、それぞれのように対応していくのが重要です。

梅田 私は看護師歴30年ですが、がん

であつても本人に知らせないという時代がありました。そのような時代を生きてきた高齢者のなかには、今でも古いがん医療のイメージを持ち続けている方もいます。私の母も、70代はじめに胃がんが見つかったときは「抗がん剤は体がボロボロになる」と信じて、最初は治療を嫌がっていました。今のがん治療の利点や、新しい情報を高齢者にどのように伝えていけばいいのか、難しいところです。

長島 今と昔では、ずいぶん高齢者の情報収集方法も変わってきているのではないのでしょうか。今は行動パターンが若々しくなっていて、スマホやパソコンで情報収集する方も大勢いらつしゃいますし、そのため新しい情報や医療を以前よりも受け入れやすい環境になつてきていると思います。

例えば『がん情報サービス』（国立がん研究センターが運営する情報サイト）がありますので、適切にその情報を参照できる患者さんがいる一方で、そこまで辿り着けない方もいるので、情報共有の仕方はまだまだ工夫の余地があると思います。2022年度末に閣議決定予定の「第4期がん対策推進基本計画」でも、より工夫が必要であることやICT（情報通信技術）を活用することなどが盛り込まれていると聞いています。今後、具体的な対応が進んでいくと思います。

認知機能低下のなかでの

意思決定の難しさ

梅田 高齢者の宿命として、認知機能の低下があります。どのように対応していくかが重要になっていきますね。

長島 認知機能は、患者さんの理解力、意思決定能力に影響があるほか、家族

との意見の相違という問題も背景として起こりうるため、対応にも配慮が必要です。患者さん本人の意向を治療に適切に反映して、治療につなげていくには、そこに至るまでのさまざまなプロセスや支援が必要になってきます。



長島 文夫（ながしま ふみお）

杏林大学医学部腫瘍内科学 臨床教授

1991年東北大学医学部卒。98年同大学大学院消化器病態学分野修了（医学博士）。同年より国立がんセンター東病院内視鏡部消化器科医員。埼玉医科大学臨床腫瘍科講師、南カリフォルニア大学腫瘍内科リサーチフェローを経て、2017年より現職。専門は消化器癌の薬物療法、最近では介護ロボットの普及や、ウェアラブルデバイスを用いた患者モニタリングの開発についても検討を進めている。

梅田 ご自身でも、がんになって初めて認知機能の低下に気づくこともありま
す。家族も離れて住んでいて、気づいて
ないこともありますし。がんを診断され
るのと、認知機能低下の現実に向き合
うのが、同時に起こってしまう。そのよ
うなダブルパンチが、最近の高齢者に多い
気がします。

長島 私のところに来る患者さんにも、そ
のような方もいらっしゃいます。「がん診療
連携拠点病院の整備に関する通知」には、
高齢患者さんの状態を確認するために「意
思決定能力を含む機能評価を行い」とい
った文言もあります。老年医学の領域では、
高齢者の全身状態を治療に反映させる方
法として、高齢者機能評価といった手法で
対応しています。このなかには認知機能の
評価も含まれます。簡便な方法でチェック
することも試みられており、腫瘍学の領域
では、例えば「G8（ジーエイト）」とい
うスクリーニング法では8つの質問に答えて
もらって評価しますが、まだ高齢者機能
評価は確立された方法ではないというのも
現状です。老年医学の専門家がいらっし
やる病院ですと、相談や工夫がしやすいの
かもしれません。

梅田 がん専門病院ではなかなか老年
医学の医師はいませんし、マンパワーをあ

まりかけられないという現状もありま
す。そんななかでも、高齢患者さんが
意思決定ができるようにするために、医
療者などが活用できるツールがあるそう
ですね。

長島 『高齢者のがん診療における意思
決定支援の手引き』という冊子がありま
す。国立がん研究センター先端医療開発
センターの小川朝生先生の研究班で作成
したものです。施設によっては、もう意思
決定の取り組みをうまく進められていると
ころもあるでしょうし、まだこれから工夫
しようという施設もあるかもしれません。
各施設でこの手引きを活用していただき、
工夫してもらえないでしょうか。

梅田 治療の選択は、情報を理解し思
いを伝える話し合いのプロセスだと思いま
す。医療者側も、患者さんの話をどう
キャッチして、自分で決めようという気
になつてもらえるか。患者さん自身も、
これまでのように、〇お任せ〇のままでは、
その人に合うがん医療を受けられないこ
とがある気がします。

長島 当然ですが、積極的に考え、相談
して決めていかれる患者さん、ご家族もい
らっしゃいます。〇お任せ〇の方もいらっ
しゃいます。その場合でも、大事にして



梅田 恵（うめだ めぐみ）

ファミリー・ホスピス株式会社 執行役員・品質管理責任者・がん看護専門看護師
1987 年京都市立看護短期大学卒業、2000 年がん看護専門看護師認定（日本看護協会）、2014 年聖路加看護大学院を修了し看護学博士、2014 年 11 月より
昭和大学大学院保健医療学研究科教授、淀川キリスト教病院、昭和大学病院で緩和
ケアチームに従事するなど臨床にも携わる。NPO 法人キャンサーネットジャ
パン理事、NPO 法人マギーズ東京理事、NPO 法人ともいき京都幹事。地域で
の緩和ケアを受けられる環境作りを目指し、2020 年より現職。

いることとか、これだけは嫌だということ
を聞き出すようにしています。通常の外
来などではあまり余裕がないことも多いの
で、比較的ゆとりを持って時間を設定す
ると、患者さんの安心に繋がるとしていま
す。一度そのような関係を作れると、そ
れ以降の対応や説明もスムーズに進められ
るのではないのでしょうか。

梅田 治療の〇止め時〇について話し合
いをするときはどうでしょうか。

長島 急激に全身状態が悪くなつてし

まう患者さんに、治療の継続が難しい
という話をするがありますが、家
族はそれを理解していても、本人は納
得できないというケースもあります。
標準治療が終わったとき、患者さんは
「見捨てないでほしい」という思いが
当然あります。家族と本人の気持ちの
相違も含め、本当はどのような対応が
望ましいのか、本人や家族が何を望ま
れているのかを、常に相談しながら進
めていくのが重要です。



在宅医療では、地域のサポートに課題



梅田 高齢のがん患者さんを支え、治療

を安全に進めていくためには、地域のサポートが重要です。地域の高齢者支援を担うのは地域包括支援センターなので、がん患者支援にも、もつと巻き込めるといいですね。現状では、地域包括支援センターがフォークスしているのは、体が衰えてきている高齢者、なので、比較的元気に動いているような高齢のがん患者のサポートは弱いです。

長島 おそらく、がん患者さんと一般の高

齢者医療が結びついていなかったという側面はあると思います。地域包括支援センターが中心となつて高齢者の対応をするというのはすばらしい制度ですが、がんの拠点病院などと早期から速やかに連携できるともつと良くなるかもしれません。そこがうまく結びつけば、がんになった方にも早めの介入ができるでしょうし、これから解決していく課題の一つかと思います。

梅田 制度の面でも気になっている課題が

あります。地域包括支援センターは訪問看護の窓口にもなっていますが、訪問看護

を受けられるのは、介護保険を使っている

か、がんの場合は、医療保険では回復の見込みのないがんや医師が判断した方のみ。医師が回復の見込みがないと判断されない状況では、介護保険でしか訪問看護が行えず、介護認定を受けることを勧めますが、体が動くうちは介護度も低く、訪問看護が動きにくい現状があります。制度としてがんの診断があるときは訪問看護を受けられるようにして欲しいですね。

長島 最近では、病院で治療を継続して

いる段階から、在宅医療の説明も行い、必要に応じて併用するように調整をしています。ただ、一人暮らしや老老の世帯では、近所にお住まいの息子さんなどの親族が支援してくれる場合でも対応しきれないこともあります。高齢者施設に入りながら治療を受けることもできますが、終末期になったときに施設がどのように対応できるのかの問題もあり、悩ましいところです。

梅田 その部分が私の本業なのですが、高

齢者の治療を支える場として「ホスピス住

宅」というものをおこなっています。これまでなかったリソースかなと思っています。

梅田 そのほか、長島先生が地域包括ケアに期待することはありますか。

長島 高齢者がいきいきと生活する上で大切なのは、「栄養」「運動」「社会への参加」の3つが重要ではないか言われています。がん患者さんにもそれは重要だと感じています。がん患者さんは栄養と運動には比較的注意を払っているのかもしれませんが、地域包括ケアを通じて、社会参加が進むと良いのではないかと考えています。

梅田 社会参加、大切ですね。そうすると、治療はもちろんですが、生活の仕方の選択も大事になってきます。サポートする側も、若いがん患者さんの就労支援と同様に「社会参加や生活の継続」を意識しながら向き合うことも重要なのだらうと思いました。

文／木口マリ 撮影／清原明音



冊子「高齢者のがん診療における意思決定支援の手引き」
国立がん研究センター先端医療開発センターホームページ「高齢がん患者に関する研究」からも閲覧できます。
https://www.ncc.go.jp/jp/epoc/division/psycho_oncology/kashiwa/research_summary/050/020/index.html

血液がんフォーラム2022

オンライン開催報告

白血球やリンパ腫、多発性骨髄腫など血液のがん情報を届ける「血液がんフォーラム2022」は、11月19日(土)〜20日(日)に一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパンとの共催で無事に終えることができました。今年で4回目(オンラインでは3回目)の開催でしたが、1200名を超える事前参加申込があり、当日は海外からのアクセスを含め、約6000回の視聴がありました。

登壇者は総勢44名、2日間で27コンテンツを実施し、疾患については専門医から分かりやすく講演いただき、昨年を超える充実した内容だったとの感想をいただいています。新しいテーマとしては「腫瘍循環器(心毒性)」や、「血液がん治療後の二次がん」、「高齢者の移植」など、血液がん患者なら誰でも知りたいと思っている内容を盛り込みました。経験者による「本音トーク」は、昨年に引き続き視聴者数が最も多く、今年も大好評でした。クロージングセッション「血液がん今昔物語」では、骨髄バンク評議員の大谷貴子さんと、株式会社毎日放送(以下MBS 毎日放送) 社長の虫明洋一さんが慢性骨髄性白血病の治療経験を語り、大阪国際がんセンターの多田雄真先生と共に血液がんの治療が大きく改善されてきたことを振り返りました。

20日は協力団体から参加者を選出した公開座談会をZoomでイマージング機能を使って開き、ライブ視聴者からの質問やコメントにも答えるユニークな時間となりました。今回の試みとして、「あつまれ!血液がんの仲間たち」と題して、オンラインページの作り直しました。血液がんの治療

に関わる医療機関や、患者さんやご家族のための情報発信やサポートをしている企業、患者会、団体等の情報を掲載し、11月を血液がんフォーラム月間として、各団体が開催する交流会などの情報も周知し、講演を視聴するだけでなく参加するフォーラムにもなりました。

また、以前よりCJNとMBS 毎日放送が共催している「ちややまちキャンサーフォーラム」は、今年初めて血液がんをテーマに取り上げ、当フォーラムとのコラボレーション企画となりました。血液がんの根治を目標に掲げて施行する同種造血幹細胞移植は、造血幹細胞を提供するドナーを必要とします。ドナーは患者の命を救うだけでなく、次の世代へと命を繋いでいく存在でもあるのだということを知り、多くの方々へ知っていただけたのではないかと思います。

アンケートにご回答いただいた91%以上の方が参加したことに満足したと回答し、改善点や取り上げてほしいテーマを含め、大変多くのフィードバックをいただきました。「オンラインではあっても、同じことに悩み、同じ不安を抱えている人がいて、それをなんとかしようとしている人が確かにいることを知ることができて、勇気づけられました。」という感想が象徴的でした。開催にあたり、ご協力・ご支援を賜りました皆様に改めて感謝申し上げます。

文/古賀・池田

アーカイブ動画は
こちらから
順次公開予定



<https://www.bloodcancerforum.jp/>

ヤンセンが目指すのは、 病が過去のものになる未来を作ることです。

世界のすべてが、私たちの研究室。病と懸命に闘う患者さんのために、高い科学技術、独創的な知性、世界中の力を合わせ、新しい可能性を切り拓く。
すべては、私たちの解決策を待つ、ひとつの命のために。複雑な課題にこそ挑んでいく。
新しい薬を創るだけでなく、それを最適な方法で提供する。
革新的な薬や治療法を、届ける。世界中に、私たちを待つ人がいる限り。
誰もが健やかに、いきいきと暮らす社会。
そんな「当たり前」の願いのために、自ら変化し、努力を続けます。

ヤンセンファーマ株式会社
www.janssen.com/japan
www.facebook.com/JanssenJapan



ちややまちキャンサーフォーラム

オンライン2022開催報告

毎年MBS毎日放送と開催している「ちややまちキャンサーフォーラム」。8回目となる今年は「乳がん」「血液がん」をテーマにオンラインで11月20日（日）に開催しました。

まずは、高井美紀アナウンサーによる進行のもと、もっと知りたい乳がん治療・専門医が解説する最新情報「ホルモン陽性乳がんの薬物療法」をテーマに大阪国際がんセンターの中山貴寛先生にご講演いただきました。乳がんの特徴から薬物療法に至るまでのポイントについてお話しいただき、ホルモン陽性乳がんの薬物療法について解説されました。分子標的薬の中でも抗体薬物複合体（ADC）は最小限の抗がん剤がんにピンポイントで届き周囲の細胞への影響も最小限に抑えられ良いデータも出てきていることや、CDK4/6阻害薬のアベマシクリブはホルモン受容体陽性に対する術後内分泌療法に使える薬剤の選択肢として20年振りに追加されたことをお話しさ

れました。次に「ERBB陽性乳がんトリプル

ルネガティブ乳がんの薬物療法」について、市

立貝塚病院の大城智弥先生にご講演いただき

ました。ERBB陽性乳がんでは、転移性又は

手術不能のERBB低発現（2+、1+）の患者さ

んへもトラスツズマブデルクスタンという有

効な薬が使える様になり、新しい治療の選択

肢が増える可能性があることが紹介されまし

た（現在日本では保険適用外）。トリプルネガ

ティブ乳がんについては、抗がん剤が良く効く

患者さんも多いことから、再発高リスクの患者

さんへ術前・術後の薬物療法として免疫チエッ

クポイント阻害剤のペムブロリズマブと併用し

て使う事が出来るようになったと説明されまし

た。最後は「自分に合った乳房再建の見つけ方」

をテーマに大阪大学の富田興一先生よりご講

演いただきました。再建時期と再建様式の組

み合わせにより4パターンに分けられそれぞれ

に長所・短所があること、自家組織（遊離腹

部せん通枝皮弁・広背筋皮弁等）やインプラ

ントを用いた再建法のほかに脂肪注入（単独

或いは他の再建法に補助的に使用。現在のと

ころ保険適用外）による再建法について詳し

くお話しいただきました。一つの施設で全ての

再建法を行えるわけ

はないので自身にあ

った再建法を行う施設を

じっくり検討してほし

いとお話しされてい

ました。

午後からはZoom

で



上左から：山中真アナウンサー、早川真優さん、早川史哉選手、多田雄真先生

ミーティングで乳がんのMeet The Expertを開催。乳がん薬物療法の部屋では大城先生が乳房再建の部屋では富田先生が、参加者からの質問に答えました。

血液がんのセッションでは、スペシャルゲストに白血病サバイバーでJリーグアルビレックス新潟の早川史哉選手と奥様の真優さんが登壇しました。

最初に大阪国際がんセンターの多田雄真先生が造血幹細胞移植について解説され、続いて昨年骨髓バンクを介してドナーとなられたMBS山中真アナウンサーが自身の体験を語りました。その後のトークセッションでは、早川選手の病気の向き合い方などを中心に会話が進みました。「自分の場合は、退院から4年かけてアスリートとして、ようやく自分の思っていた動きが出来るようになったけれど、人それぞれ、自分のペースを大切にしたい」と早川選手。「今の自分を受け入れられない限り先には進めないと思った」と話されたことが印象的でした。また、早川選手からは妊孕性温存

の話もあり、移植治療の前に精子保存をされていたこと、そして真優さんからは現在妊娠中であるとの嬉しい発表もありました。

MBS本社ビルの外では、献血車が来車し23名が献血に協力し、7名が骨髓バンクドナーへ登録されたそうです。

今年も34の患者会とサポート団体の皆さんの活動の特設サイトで公開しています。

最後になりましたが本イベントにご支援下さいました日本イライリー株式会社を始め、関係者の皆さま方に厚くお礼申し上げます。

文／橋本・藤原

アーカイブ動画は
ちややまちキャンサー
フォーラム特設サイトで
ご覧いただけます。



<https://www.cancernet.jp/mbscnj/program2022.html>

「HBOCとは」「HBOCと診断されたら」
「日常生活での注意点」など知っておきたい
全59クエスチョンを掲載！

遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)
診療ガイドライン2021年版準拠

みんなのための
ガイドブック 2022年版
**遺伝性
乳がん卵巣がん
を知ろう！**

A5判 236頁 定価1,980円(本体1,800円+税10%)
ISBN978-4-307-20462-0

金原出版 <https://www.kanehara-shuppan.co.jp/>



オンライン市民公開講座 ためらっていませんか？ 医師・看護師へのご相談 開催報告

11月6日(日)に「オンライン市民公開講座 ためらっていませんか？ 医師・看護師へのご相談」が乳がん治療における患者さんと医療従事者のコミュニケーションを考える」を日本イーライリリー株式会社、CJ 共催で開催し、参加者は175名に上りました。

乳がん手術後5～10年のホルモン療法が推奨されるホルモン受容体陽性乳がんでは、主治医や医療スタッフとの関わりも長期間に及ぶため、ホルモン療法中の乳がん患者さんが医療従事者より円滑にコミュニケーションを取れるようにと本講座を企画しました。

まず、坂東裕子先生(筑波大学乳腺・甲状腺・内分泌外科准教授)より「乳がん手術後のホルモン療法における患者と医療従事者のコミュニケーション」と題し、日本イーライリリー株式会社が乳がん患者さんを対象に行った術後ホルモン療法のアドヒアランスに関する

アンケートの調査結果を中心にご講演いただきました。医療従事者と患者さんの双方向性のコミュニケーションが実感できると服薬アドヒアランスも向上し、医療が円滑に進むとお話がありました。

その後、小川朝生先生(国立がん研究センター東病院精神腫瘍科)、飯嶋由香里氏(足立乳腺クリニック乳がん看護認定看護師)、中川圭氏(乳がん患者友の会きさらし理事長)が加わったパネルディスカッションでは、「どうすれば家族に副作用のつらさを理解してもらえるか」、「忙しい主治医にどのように質問すればいいか」、「治療によって影響のある性生活について主治医に質問しづらい」といった患者さんからの声に、まずは言葉にして伝えることの大切さが説かれ、主治医の他にも乳がん認定看護師やがん相談支援センター、患者会などをぜひ頼ってほしいと締めくくりました。

文/多田



上：セミナー中の様子



上左から：飯嶋由香里氏、坂東裕子先生、中川圭氏、小川朝生先生



Lilly



第13回

リリー・オンコロジー・オン・キャンパス

がんと生きる、わたしの物語。

絵画 × 写真 × 絵手紙 コンテスト

コンテスト作品募集

あなたの物語を表現してみませんか

コンテストは、技法や手法にとらわれることなく、
がんとともに生きる「想いを伝える」ことを重要としています。

応募登録期間 (当日消印有効)

2022年8月23(火)～2023年1月31日(火)

リリー・オンコロジー・オン・キャンパス事務局

〒530-0004 大阪府大阪市北区堂島浜2-2-28 堂島アクシスビル7階(東武トップツアーズ メディカルカンファレンスセンター大阪内)

☎ 0120-78-1307 10:00～18:00 平日(土日祝日除く)

✉ info@locj.jp

🌐 www.locj.jp





上：セミナー中の様子
ご登壇頂いた講師陣総勢 99 名

下：当日の A 会場配信スタッフ一同



アーカイブ
動画は
こちらから



<https://www.japancancerforum.jp/programs>

文／多田

がん患者さんやご家族、一般市民のための日本最大級のがんフォーラムである「Japan Cancer Forum (JCF) 2022」を8月6日(土)～7日(日)にオンラインにて開催しました。

9回目を数える今回は「共にツナグ、その先の未来」をキャッチコピーとして、医療技術の進化や患者団体・医療者との連携をコンセプトに、56のコンテンツにてあらゆるがんに関する最新情報を発信いたしました。

2日間の視聴サイトの総ページビュー数は41,424回と、大変多くの方にご視聴いただきました。当日の講演はアーカイブ動画にて無料でご視聴いただけますので、ご活用ください。また当日お届けできなかった「グリーンフサポーター」身近な人の死に直面したときに「は後日収録した動画を公開しておりますのでぜひ」視聴ください。

参加者アンケートでは、「入院中の病室から参加できた」「地方からも参加しやすい」などオンライン開催へのニーズが高いことがうかがえます。一方で、ハイブリッド開催、会場開催への要望も多く頂戴いたしました。

また、つどいの広場では、「集う」をテーマに、前回に引き続き患者会・患者支援団体と参加者が交流を行う「全員集合！どこでもドアで交流会へ！」を実施し、参加者の方から「素敵なご縁、繋がりができた」というお声をいただきました。

登壇者やボランティアの皆さまが無償で協力くださったことにより、今回も盛会のうちに終わることができましたこと改めてお礼を申し上げます。今後も継続して JCF を開催できるように、皆様方からの寄付によるご支援を賜りたく、引き続きよろしく願っています。

節目の第10回となる次回の Japan Cancer Forum は 2023 年 8 月 5 日(土)～6日(日)に開催する予定です。

ジャパン・がんフォーラム 2022 オンライン開催報告

第12回男性乳がんの会 開催



上左から：前田小絵子さん、大友明子さん、沢田晃暢先生、下村昭彦先生

次回開催のお知らせ

お申込みは
こちらから



日時：3月11日(土)
時間：14:00～16:00
(開場 13:45～)

場所：東京ウィメンズプラザ
視聴覚室 C

<https://ws.formzu.net/sfgen/>
S82766935/ (東京都渋谷区神宮前5丁目53-67)

8月28日(日)に東京ウィメンズプラザ視聴覚室にて第12回男性乳がんの会(メンズBC)を開催いたしました。

新型コロナウイルス拡大により、2020年からオンラインにて行っておりましたが、今回は久しぶりに「Zoom」にて催すことができました。特別ゲストとして沢田晃暢先生(NTT 東日本関東病院乳癌外科部長)、下村昭彦先生(国立国際医療研究センター乳癌・腫瘍内科/臨床ゲノム科)をお迎えし、7名の参加者とともに情報の交換を行いました。参加者より「直接お会いできたので、聞きたいことが気軽に聞けてよかった」との感想をいただきました。次回は、2023年3月11日(土)開催予定です。

文／多田



2022
CONTINENT 2
CONTINENT 4
CANCER
Japan

参加ライダーのコメントを一部ご紹介!

C2C4C の活動をより多くの方に知っていただき、がん患者さんのためにできることを考えるきっかけとなれば幸いです。これからも私たちは、がん患者さんのためにできることは何かを考え、行動していきたいと思います。

厳しい行程もチームで支え合いながら成し遂げることができました。チームメンバーもそれぞれの想いを胸に充実した C2C4C を過ごしましたし、少しでも患者さんのためになったなら幸いです。

皆様から頂いたご寄付は、がんサネットジャパンの活動に大切にに使わせていただきます。

がん患者さんに BMS の思いが届き、募金が少しでもお役に立てることを願ってペダルをこぎ続けました。

過酷なコースの私たちのライドは、患者さんやご家族の抱えられている困難には代えられるものではありませんが、チームの皆さんの真摯な思いが患者さんやご家族に届くことを願っています。

チャリティサイクリングイベント・
Continent 2 Continent 4 Cancer
(C2C4C) よりご寄付いただきました。

プリストル・マイヤーズスクイブ(BMS)株式会社のチャリティサイクリングイベント・Continent 2 Continent 4 Cancer の取り組みに賛同、同社とパートナーシップを結び、C2C4C からクラウドファンディングとマッチングギフトをあわせ約188万円をご寄付いただきました。プリストル・マイヤーズスクイブ株式会社の皆様の温かいお志に心から感謝申し上げます。

「オンライン」乳がん疾患啓発セミナー わかる乳がん

「わたしにあった治療の見つけ方」開催

10月25日（火）アストラゼネカ株式会社との共催で「わかる乳がん」わたしにあった治療の見つけ方」を開催し、約500名の方にご参加いただきました。

乳がんと診断されると、患者さんは短期間で乳がんについて理解し、決めなければならぬことが多くあります。納得して治療を受けるうえで、情報収集や知識の習得が重要であることから本イベントを企画しました。

最初に国立国際医療研究センター病院乳腺・腫瘍内科清水千佳子先生が「乳がんの基礎知識」について講演され、乳がんはサブタイプが同じであっても予後は人それぞれ異なり、

科学的な情報を理解したうえで、自分の価値観と向き合って治療を決める必要があると話されました。つづいて元報道記者・キャスターで、認定NPO法人マギーズ東京代表の鈴木美穂さん、芸人のだいたひかるさんがご自身の乳がん体験を語りました。鈴木さんは24歳という若さから、将来の妊娠を考えてくれる医師にたどり着くまでの苦労をお話しされ、

だいたさんは、治療を選択する際、あまりの情報量の多さに「お勧めは何ですか」とレ스토랑で尋ねるように主治医に尋ねたというエピソードを話されました。

トークセッションでは女性医療ジャーナリストでCJN認定乳がん体験者コーディネーターの増田美加さんがファシリテーターを務める中、乳がん患者さんを対象に行ったアンケートの結果を示しながら「信頼する情報がどれかわからなかった」や「すぐには欲しい情報が見つからなかった」といった情報収集における患者さんの困りごとについて話し合いがされました。鈴木さんは「ワンストップでここに行けば正しい情報があるというのが周知される」といいと思います」と、だいたさんは「主治医が話している専門用語が理解できなかったのが初心者でもわかりやすい情報があるといいですね」と話されました。増田さんからは、情報を見るときは、情報の信頼性が担保されており、かつ分かりやすいのが良いとした上で、今回ローンチされた「ZINアカウント」わかる乳がん」の紹介がありました。

上左から：増田美加さん、だいたひかるさん、鈴木美穂さん、清水千佳子先生

文／藤原

わかる乳がん

乳がんの疑いがある方や乳がん患者さんが
検査や治療に前向きに臨まれることをサポート

疾患や治療に
役立つ幅広い情報



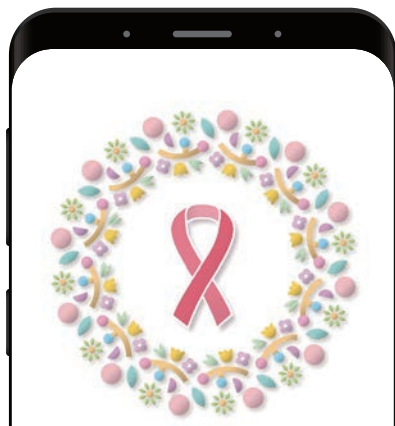
乳がんを知ろう
監修：がん研究会有明病院



患者体験談



よくある質問



アストラゼネカ株式会社

作成年月：2022年11月（JP-62926）

LINEアカウント | 利用無料

スマホがあれば
どこでも見られる



LINEアプリ内でご覧いただくことができます。こちらから友達登録してご利用ください





LINE
スタンプ
はこちらから



<https://store.line.me/stickershop/product/20268090/ja>

CNJの公式キャラクター「キャンとウィル」が表現する「LINEスタンプ」の第2弾が完成しました。今回は静止画ですがイラストは40種類あり、治療中だけでなく日常でも使いやすいスタンプが中心になっています。動くスタンプも好評で、現在は定額制のスタンプ使い放題でも使用できます。売り上げの一部はCNJの活動費に充てられます。是非、ご利用ください。

LINEスタンプ第2弾販売開始！

2020年より日本対がん協会協力による休眠預金活用事業としてウェブサイトやセミナーでの情報発信、小冊子や啓発動画の制作、チャット形式の無料相談（アプリ）などを実施しています。気が付けば、他団体でも性と性をテーマにしたイベントが開催されるようになり、小冊子「もっと知ってほしいがんと性のこと」は医療機関での患者支援に活用されるようになりました。メディアに掲載される機会も増え、少しずつではあるものの、目標に掲げてきた「安心して性について語り合える社会」に近づいてきているのを実感します。

がん経験者の性生活への影響に対する セクシュアリティ支援事業

セクシュアリティ支援事業

1月21日（土）開催！

医療者向けハイブリッドセミナー

「もっと話そうがんと性セクシュアリティのこと」

がんの進行や治療は性生活・妊娠・出産といった性機能や生殖機能に影響を与えることがあります。しかし、患者さんやパートナーからだけでなく、医療者からも話づらいテーマの一つです。医療者としての知識と理解を深め、今日から何ができるのか、ともに考え学ぶ機会になるよう企画しました。

専門医による解説のほかに、タレント・婦人科がん患者会よつばの会代表の原千晶さんや、大腸がん・直腸がん・肛門がんの罹患経験者にもご登壇いただき、体験談を伺います。オンラインだけでなく、会場でもお待ちしております。

文／池田

参加費：無料

要申込

医療者向け

開催日／2023年1月21日（土）

時間／14:00-16:00

ハイブリッド形式（会場 or オンラインから選択）

会場：東京国際フォーラム G510 定員 70 名

オンライン：Zoom 定員 500 名

詳細・申込

<https://www.cancernet.jp/sexuality2023>

お申込みは
peatix から



Peatix

LINEアカウント | 利用無料

卵巣がん患者さんのための治療情報

わかる卵巣がん

「わかる卵巣がん」は、卵巣がんの患者さんとご家族のための情報ページです。治療に役立つ幅広い情報で、患者さんをサポートいたします。

疾患や治療に
役立つ幅広い情報



卵巣がんを知ろう

卵巣がんの特徴や基本的な
治療などを解説



患者体験談

さまざまな年代、家族構成の
患者さんの体験談を掲載



よくある質問

患者さんが抱きやすい疑問について、Q&A形式で解説

卵巣癌治療の情報は
動画も交え解説



監修：特定非営利活動法人婦人科
悪性腫瘍研究機構（JGOG）

スマホがあれば
どこでも見られる



LINEアプリ内でご覧いただくことができます。こちらから友達登録してご利用ください



アストラゼネカ株式会社

作成年月：2022年11月（JP-62924）

小児がん疾患啓発のご報告！ プロ野球・不二家・啓発動画で小児がん支援

プロ野球で小児がん支援

9月は世界小児がん啓発月間。明治神宮球場で9月13日（火）に行われた東京ヤクルトスワローズ対読売ジャイアンツ戦を「キャンサーネットジャパン presents ゴールドリボンナイター」として冠協賛しました。当日は小児がんの治療経験のある子どもたちとご家族合わせて50名を招待し、サバイバーによる始球式や贈呈式などのセレモニーを実施しました。オープニングトークではCNCJ理事の中井美穂アナウンサーが小児がんについて来場者へ説明し、試合中は球場の大型ビジョンに入院中の子ども達から届いた応援メッセージが放映されました。スワローズの選手たちは



花束贈呈の様子：左から喜多 隆介選手、石上 遙人さん、荒川 千尋さん、赤羽 由紘選手
①：佐野祐晟さんによる始球式 ②：ゴールドリボンのリストバンドを着用した選手



小児がんの啓発カラーである「ゴールドのリストバンド」を着用し、村上宗隆選手は55号ホームランを打ち、野球史に残る記念試合となったことを皆で喜びました。

このイベントは、医療法人社団ナイズ（キヤップスクリニック）様と株式会社コロボ様より寄付の支援を受け実現しました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

日本のプロ野球チームが球団をあげて小児がんの啓発をしたのは初めてだったことから新聞やネットニュースなど多くのメディアに取り上げていただきました。また、この試合の模様はBSフジで放映されました。



不二家のペコちゃんが

ゴールドリボンで啓発

9月15日（木）～9月30日（金）の間、東京と横浜の不二家5店舗にてペコちゃんとスタッフの皆さんがゴールドリボンピンズを胸元につけて小児がん啓発をしてくださいました。

この企画は、早稲田ビジネススクールとデジタルハリウッド大学の学生さんにご協力いただき、レストランの店頭には啓発パンフレットを設置して、多くのお客様に小児がんについて広く知っていただく機会を設けてくださいました。

小児がん啓発動画を作成いただきました

小児がんのことを知ってもらい、ゴールドリボンピンズで協力してくださる方が増えるように、紹介動画をデジタルハリウッド大学デジタルコミュニケーション学部1年の磯部舞香さんが作成してくださいました。主にSNSでの小児がん啓発活動に使わせていただきます。

文／古賀



ゴールドリボンピンズを着けたペコちゃん

動画は
こちらから



<https://youtu.be/koq7YjGCD9o>

To serve patients

患者さんのために、今できるすべてを

アムジェンは1980年、バイオテクノロジーの黎明期に米国カリフォルニア州ロサンゼルス近郊にて産声を上げました。

バイオテクノロジーを患者さんのために役立てることを決意し、以来、探求を重ねてきました。

40年を経た現在、アムジェンは世界最大規模の独立バイオテクノロジー企業へと成長しました。

日本では、循環器疾患、がん、骨疾患、炎症・免疫性疾患、神経疾患の領域に重点を置き、アンメット・メディカルニーズに応える製品開発を進めています。

アムジェン株式会社 **AMGEN®**





中井美穂さん、佐藤太郎先生、室圭先生、佐々木香織さん、佐々木公徳さん、橋本久美子さん

下：セミナーの様子



活動報告は
こちら



<https://www.cancernet.jp/online221210>

文／浅葉

オンライン市民公開講座「大腸がん患者さんとご家族に知ってほしいこと」を武田薬品工業株式会社と共催で12月10日（土）に開催いたしました。

司会はキャンサーネットジャパンの理事である中井美穂さんが務め、まず初めに愛知県がんセンターの室圭先生より開会挨拶と大腸がんのお話をいただきました。次に大阪大学医学部附属病院の佐藤太郎先生による講演と聖路加国際病院の橋本久美子さんの講演でした。佐藤先生のお話は、患者にとっては嬉しいお話もあったかもしれませんが、それでも終始優しい口調で、参加者から心に響きましたという感想が多く寄せられました。橋本久美子さんには日頃、患者・家族から相談を受けている立場から、よくある相談などを交えつつ、

がん相談支援センターで受けられるサポートなどを紹介いただきました。

後半は大腸がんサバイバーである佐々木香織さんの患者の立場としての体験談、そして夫である佐々木公徳さんの家族の立場としての体験談から始まりました。香織さんのポジティブさに助けられているという公徳さんの言葉がとても印象的でした。

その後のトークセッションは事前に寄せられた質問、また当日視聴者から寄せられた質問に登壇者が答える形で、終始和やかな雰囲気の中で進みました。とても多くの質問が寄せられ、全て取り上げられなかったのが残念ですが、室先生、佐藤先生には医療的な観点、また日頃から患者と接している立場からとても真摯に答えていただきました。橋本さんからは患者・家族にとっても役に立つ情報を、また佐々木さん夫妻からはご自身の経験を交え、飾らない気持ちを聞くことができました。

セミナーの様子は、活動報告およびチャンネルより見ることが出来ますので、ぜひご覧ください。

「大腸がん患者さんとご家族に知ってほしいこと」 「共に歩むために」開催

冊子 「もっと知ってほしい 大腸がんのこと」改訂

2019年から3年ぶりに東京医科歯科大学医療イノベーション推進センター准教授石黒めぐみ先生監修のもと、冊子「もっと知ってほしい大腸がんのこと」を改訂いたしました。

この冊子は大腸がんの診断された方のために、診断から治療まで分かりやすく説明しています。今回の改訂については、2022年に発行された大腸癌治療ガイドライン医師用と患者さんのための大腸癌治療ガイドライン（共に2022年版 大腸癌研究会編 金原出版刊）の内容を織り込んだものとなりました。大腸がんの治療は日々進化し、複雑になっています。主に薬物療法の情報を更新し、投与の対象となる患者さんが限られる薬についても対象患者さんがわかるように整理しました。またバイオマーカー検査として特にMSI検査、RAS遺伝子検査、BRAF遺伝子検査についても詳しく説明をしています。

冊子はウェブサイトで見ることができ、無料でダウンロードが可能です。ぜひ活用ください。

文／浅葉



冊子詳細は
こちらから



<https://www.cancernet.jp/daicyougan>
冊子は無料でダウンロードが可能

Better Health, Brighter Future

タケダは、世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献するために、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業として、革新的な医薬品やワクチンを創出し続けます。

1781年の創業以来、受け継がれてきた価値観を大切に、常に患者さんに寄り添い、人々と信頼関係を築き、社会的評価を向上させ、事業を発展させることを日々の行動指針としています。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



ONCOLOGY



冊子「もっと知ってほしい すい臓がんのこと」 改訂

医療現場で、エビデンス（科学的根拠）などに基づいて最適と考えられる治療法を提示する文書のことを診療ガイドラインといいます。治療法などを決定する際の判断材料として最新の情報を専門家の手で分かりやすくまとめた指針であり、定期的に改訂されています。2022年7月に膵臓診療ガイドラインが改訂され、それに合わせて今回、冊子を改訂しました。

国立がん研究センター中央病院肝胆膵内科科長の奥坂拓志先生と、山形大学大学院医学系研究科医学専攻外科学第一講座教授の元井冬彦先生監修のもと、日本セルヴィエ株式会社の支援を受け、すい臓がんそのものや標準的な治療などについて、患者さんやご家族など、支援される方が知っておきたいことをまとめています。

冊子は、ウェブサイトで閲覧が可能で、ダウンロードして印刷することもできます。是非、ご活用ください。

文／池田



冊子詳細は
こちらから

<https://www.cancernet.jp/suizogan>
冊子は無料でダウンロードが可能

冊子「もっと知ってほしい 急性骨髄性白血病のこと」 改訂

2018年に発行した冊子「もっと知ってほしい急性骨髄性白血病のこと」を獨協医科大学血液・腫瘍内科教授の三谷綱子先生監修のもと改訂しました。

急性骨髄性白血病（AML）は急性白血病の一種で、加齢とともに発症率が高まるものの、小児から高齢者まで各年代で発症する血液がんの一種です。進行が速く放っておくと感染症や出血によって命を落とすことがあるので、できるだけ早く治療を始めることが大切です。

初版以降、治療の選択肢が増え、診療ガイドラインも改訂されました。最新版の冊子をご活用ください。

文／池田



冊子詳細は
こちらから

<https://www.cancernet.jp/aml>

冊子・動画も併せてご活用ください

「急性骨髄性白血病」については、監修の三谷先生にご解説いただいた血液がんフォーラム2022での動画もアーカイブで公開しています。こちらもご覧いただくとより理解が深まります。ご活用ください。

動画視聴は
こちらから

<https://www.cancerchannel.jp/post40583>



男性がん総合フォーラム Mo-FESTA CANCER FORUM 2022 開催報告

キャンサーネットワークジャパンが毎年協力しているMo-FESTA CANCER FORUMは、11月23日（水・祝）TKPガーデンシティPREMIUM神保町（東京都千代田区）にて開催されました。「Mo-FESTA CANCER FORUM」（男性がん総合フォーラム）は、口髭（Moustache）による男性がん啓発運動と、男性がん（前立腺がん）のフォーラムを組み合わせたものです。

本フォーラムは、2021年からは日本泌尿器腫瘍学会との共催が実現し、前立腺がんに限定し、オンライン併用ハイブリッド形式で行いました。本フォーラムの講演は、後日オンライン配信を行うと共に、NPO法人腺友倶楽部会報誌にも掲載し、全国のがん拠点病院等に無償配布を行っています。



上：当日開催会場にて記念撮影

詳細は
こちらから



<https://mo-festa.com/>

2022年度 CNJがんナビゲーター （CCN）認定試験のご報告

CNJがんナビゲーター（CNJ）認定試験を11月11日（金）～11月12日（土）にオンラインで実施し、32名の方が合格されました。がんに関わる仕事に従事されている方をはじめ、患者さんやご家族などが受験されましたが、中でも認定継続を目的とした再受験者が複数見受けられ、CCN認定者の皆さんが日常的にエビデンスのある正しいがん医療情報の重要性と必要性を実感されている様子がうかがえました。

文／濱中

詳細は
こちらから

今回の試験は、
2023年4月以降に
ホームページで公開予定

<https://www.cancernet.jp/training/ccn>



冊子「もっと知ってほしい 前立腺がんの 放射線療法のこと」改訂

バイエル薬品株式会社発行、キャンサーネットワークジャパン制作の本冊子は2018年の初版から2度目の改訂となります。今回は表紙のイラストも一新しました。浜松医科大学医学部放射線腫瘍学講座教授 中村和正先生監修のもと、前立腺がんの放射線療法について詳しく解説しています。冊子は2023年2月以降に提供開始します。

文／藤原



冊子詳細は
こちらから



<https://www.cancernet.jp/prostatecancer-radiotherapy>

米国の在宅ホスピスサービス

米国ではがんを含む重篤な病気で終末期を迎えた患者が最期まで可能な限り質の高い生活を送れるよう、70年代にホスピスが導入されました。今ではホスピス病床を持つ病院もありますが、自宅や長期介護施設で受ける在宅ホスピスサービスが主流です。ホスピス医、訪問看護師、介護ヘルパー、栄養士、社会福祉士、心理カウンセラー、理学療法を含む各種療法士らがチームとなって患者を訪問し、昼夜を問わずケアを提供します。

日本のような介護保険制度はなく、医療費も非常に高い米国ですが、積極的な治療が終了して一般的な転帰で余命6カ月以下と医師が判断した場合は、公的な高齢者医療保険（メディケア）や民間医療保険を使い、少ない自己負担でホスピスサービスを受けられます。終末期を自由に過ごしたい患者と家族による利用が増えつつあり、2019年には、メディケア加入者で亡くなった人の半数以上がホスピスサービスを使いました。

米国のホスピスサービスは、患者の身体的な苦痛への

対処だけでなく、患者とその家族の精神的苦痛の緩和や死への準備も重視し、遺族のグリーフケアも行います。また家族の負担を軽減すべく雑用を引き受けたり、時にはセラピードッグや音楽などで患者と家族を癒したりと、訓練を受けた様々なボランティアがかかわるのも特徴です。

その一方で、家族等も、看護師の指導を受けて、終末期にある患者を日常的に世話し、その時々や容体やニーズを把握してホスピスチームと情報を共有するなど、ケアに積極的にかかわる必要があります。

全米ホスピス緩和ケア協会の2021年報告書によれば、認知症や循環器、脳疾患障害などの患者によるホスピスサービスの利用が増加する一方で、がん患者の利用は減少傾向にあるようです。新たな治療法が出てきて予後予測が複雑になる中、最後まで治療に取り組む患者も多いと考えられます。それにより患者と家族が自分達の希望する終末期ケアについて臨床医に伝えるのが遅れ、結果的に死の直前しかホスピスサービスを使わずに十分な恩恵を受けられないケースも多いようです。

情報提供／海外がん医療情報リファレンス

遺贈寄付の お願い

あなたの遺す志を、がん患者支援へ
託していただけませんか？

あなたからの遺贈寄付でできること
専門医による講演会実施・講演動画の配信
治療情報や経験談冊子を作成し医療機関へ届ける
がんについての養成講座や認定試験
日本最大級のがんフォーラムの実施
患者さん同士のピアサポートなどの応援

～遺贈寄付に関するご相談はこちらへ～

電話番号 : 070-8519-0336 / 03-5840-6072
電話受付時間 : 平日 10:00 ~ 17:00 (年末年始を除く)
メールアドレス : info@cancernet.jp

2023年を迎えて

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

厳しい寒さが続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。今年は「癸（みずのと）卯（うさぎ）年」です。「うさぎは跳ねる」の通り、あらゆることが上向きになり、回復するよう、縁起の良い年になるといいですね!みんなであやかりましょう。

うさぎといえば、LINE スタンプになっているキャンサーネットジャパンのキャラクター「キャンとウィル」をご存じでしょうか?きっと今年は大活躍してくれるはず、みんなで活用していただけたら嬉しいです!

うさぎにちなんで、今年も役立つ情報を速やかにキャッチできるよう鶯目兎耳（えんもくとし）で過ごせるように、また烏飛兎走（うひとそう）で過ぎていく日々を大切に丁寧に過ごしていくようにCNJスタッフ一同努めたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

キャンサーネットジャパン常務理事
プロジェクトマネージャー 古賀 真美

LINE
スタンプは
こちらから



<https://store.line.me/stickershop/product/14811314/ja>



support

私たちの活動を 応援してください



寄付で応援

- ・マンスリー、都度寄付クレジット対応 OK!
- ・遺贈寄付のご相談もお受けしております



みなさまからの継続的な支援により、多くの患者さんやご家族、その支援者、医療者にエビデンスに基づいた情報を届けることができます。寄付で、がんサネットジャパンと共に日本のがん医療を変えましょう。

がんサネットジャパンに寄付された方は、確定申告によって寄付金控除等の税制優遇を受けることができます。

チャリボンで応援



Know (≠NO) More Cancer プロジェクト

～古本が寄付になる!～

読み終えた本や不要になった本*、整理したい本などを「チャリボン」にお送りください。その買い取り価格ががんサネットジャパンへの寄付になります。

寄付の際に
支援先名称を

「がんサネットジャパン」を

選んでください! <https://www.charibon.jp/partner/cancernet/>

※「ISBN」のない本/百科事典/コンビニコミック/個人出版などは買い取れません。詳細はサイトにてご確認ください。



* 本・CD・DVD
ゲームソフト

古着で応援



着なくなった洋服
眠っているブランド品が寄付になる!

Brand Pledge は、ブランド品買取サービス「ブランドディア」と寄付プラットフォームサービス「Syncable」の運営する買取寄付サービスです。洋服や様々なファッションアイテムを手間をかけずに簡単に寄付できます。

<https://brand-pledge.jp/associate/cancernetjapan/>

※使用困難なシミやダメージがあるもの、子ども服などは買い取れません。詳細はサイトにてご確認ください。

洋服・アクセサリ
バック・スカーフ
ハンカチ・タオル

疾患啓発・応援グッズ購入で応援

啓発グッズをお買い上げ頂き創出した利益は、全てがんサネットジャパンの活動資金として活用されます。

<https://cancernetjapan.shop-pro.jp/>



小児がん啓発
ゴールドリボン ピンバッジ
¥550 (税込)



乳がん啓発
ピンクリボン ピンバッジ
¥550 (税込)



全がん啓発
ラベンダーリボン ピンバッジ
¥550 (税込)



ラベンダーリング
うれしかるた
¥550 (税込)



小児がん啓発
レモネードスタンドランチート
¥1,980 (税込)



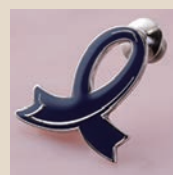
男性乳がん啓発
ピンバッジ
¥1,100 (税込)



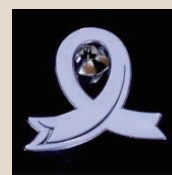
すい臓がん啓発
パープルリボン タイピンタイプ
¥1,100 (税込)



子宮頸がん啓発
ティール&ホワイトリボン
ピンバッジ
¥550 (税込)



大腸がん啓発
ブルーリボン ピンバッジ
¥550 (税込)



胃がん・食道がん啓発
ベリウィングリボン ピンバッジ
¥550 (税込)